

いしかわの遺跡

No.
42
2012.12.27

第14回 古代体験まつり



辰巳こんころ太鼓



末町ひょいひょい太鼓

平成 24 年 10 月 14 日(日)に、「人と環境」をテーマに第 14 回古代体験まつりを開催しました。今年は、晴天に恵まれ、22 の体験コーナーはどきも多くの来場者でにぎわいました。

屋外ステージでは、金沢市辰巳町・末町の「辰巳こんころ太鼓」、「末町ひょいひょい太鼓」保存会の皆さんによる特別イベント、『和太鼓演奏』が披露され、拍手あり、笑いありの内容に、会場は大いに盛り上がりました。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/

古代
体験

古代体験まつり

今年は「人と環境」というテーマで、私たち人間と自然とのかかわりを感じることでできる「体験まつり」を開催しました。

「縄文クッキー試食」、「縄文アンギン編み体験」など数年ぶりに復活したメニューもあり、「縄文鍋試食」ではシカ肉とイノシシ肉を入れて好評をいただきました。定番の「まが玉づくり」はもちろん、「古代衣装試着」、「縄文弓矢」なども多くの方が体験されました。

ステージの太鼓演奏では、小学生も「ドンドン」と威勢のいい音色をとどろかせ、まつりにふさわしい雰囲気となりました。

天気にも恵まれたおかげもあり、約1,500人の方々にご来場いただき、オープニングから終了までにぎわいが続きました。



縄文の布づくりは根気よく



おいしいぞ縄文鍋



形のいいまが玉だよ



開会を宣言する



スタンプ 10 個ペタン



お似合い!



ねらい定めて矢を射る



収穫して



ピッカピッカの鏡だよ



縄文クッキーの
できあがり



脱穀します



木を切るぞエイッ

古代
体験

夏休み「はにわづくり」体験

夏休み限定メニュー「はにわづくり」を7月21日から8月5日の16日間にわたっておこないました。1日に50体限定でしたが、連日大盛況で800体も作られました。

小学4年生以下の児童は保護者と協力し合って、粘土紐を丸めたり積み上げたりしました。また、家族全員がそれぞれご自分のはにわを作るなど、じっくりと腰を据えた夏休みならではの歴史体験ができたようです。

はにわは、乾燥を終えたあと8月8日と13日に体験ひろばの復元古窯で焼き上げ、18日から本館ホールで展示・返却をおこないました。



親子で製作



モデルをよく見て



完成しました



にぎわう体験工房



はにわめりえ



復元古窯で焼成



はにわ群像



はにわが玄関でおむかえ



顔出しはにわ

まいぶんはにわの日

8月20日を「まいぶんはにわ(820)の日」とし、ご来館された方々にかわいい人物はにわのマスコットを記念品として差しあげました。



人や動物のはにわと一緒に



千野遺跡 (七尾市)

千野遺跡は、能登国分寺跡から南へ約 500 m の場所に位置し、七尾城山から西へ派生する低丘陵の先端部に立地します。

調査は能越自動車道建設に伴うもので、弥生時代の集落および墓、古墳時代～平安時代の集落を確認できました。弥生時代中～後期では、管玉の未成品が多数出土した竪穴建物や方形周溝墓を確認しています。方形周溝墓の四辺の溝からは葬送儀礼に使われた土器が多数出土したほか、中央の墳丘部では埋葬施設が3基確認できるなど、七尾市東部の丘陵における弥生時代の墓地造成の様子を初めて明らかにすることができました。

古墳時代前～中期では、竪穴建物などを多数確認しました。建物からは土師器の甕や壺、糸を紡ぐ道具である紡錘車など暮らしの様子をうかがうことのできるものが出土しています。奈良・平安時代では、掘立柱建物や大型の土坑群のほか、平安時代末頃の木棺墓などを確認しました。建物や土坑のなかには、能登国分寺が整備された頃と同時期のものもみられ、その変遷や関連性が注目されます。



遺跡遠景 (南東から)



方形周溝墓 (弥生時代中期)



方形周溝墓の埋葬施設



円形の竪穴建物 (弥生時代中～後期)



掘立柱建物 (奈良・平安時代)

下新庄フルナワシロ遺跡（金沢市・野々市市）

下新庄フルナワシロ遺跡は金沢市^{しじま}四十万町～野々市市新庄3丁目に広がる遺跡で、高橋川の右・左岸にまたがって立地しています。二級河川高橋川広域河川改修工事に伴う発掘調査で、古代～中世の遺構・遺物を確認し、旧高橋川流路の位置から、かつては左岸に立地していた集落遺跡であることが明らかになりました。

奈良時代～平安時代初頭の遺構は、^{たてあな}竪穴建物を右岸で4棟、左岸で1棟検出しました。全形が判明したものはありませんが、方形と推定され、カマドの痕跡などを確認しました。

平安時代～中世の遺構は、川跡や^{ほったてばしら}掘立柱建物数棟を両岸で検出しました。右岸では平安時代中頃の^{はじきわん}土師器椀が多く出土しており、^{まいのういこう}土師器埋納遺構も見ついています。掘立柱建物に関連する^{じちん}地鎮などの^{さいし}祭祀が執り行われたと推定されます。

出土した遺物の中には、^{りよくゆうとうき}緑釉陶器や^{かいゆうとうき}灰釉陶器などの高価な食器に加え、「本凡」という文字をヘラ書きした土師器も見られることから、役人などの有力な住人層が想定できます。



空から見た右岸調査区（南西から）



左岸調査区（北から）



竪穴建物（北東から）



土師器椀出土状況

古代
体験

夏の限定メニュー ～まいばんを描こう～

8月13日(月)から31日(金)に、今年の新規メニュー「まいばんを描こう」を実施しました。

これは、古代体験ひろばの風景や土器などを画用紙に自由に描いてもらうもので、小学生から大人まで、復元住居やはにわ・土器などを思い思いに描き、古代の風景に思いをはせていました。

作品は9月3日から30日までセンターのホールで展示し、センターのホームページにも掲載しています。



古代体験ひろばを描く



はにわをモデルに



作品の一部



土器の文様も忠実に

夏の限定メニュー ～まいばん・バックヤード・ツアー～

8月20日(月)から31日(金)の平日に、夏休み限定メニュー「まいばん・バックヤード・ツアー」を実施しました。

このツアーは、ふだん入ることのできないセンターの収蔵庫や整理室などを、職員がご案内するものです。

参加者は、復元土器を地域ごとに並べた「収蔵展示室」や、遺跡の出土品を水洗いする「洗浄室」、土器の破片を接合・復元する「整理室」、出土品が保管されている「収蔵庫」などを興味深く見学していました。



収蔵展示室



土器を洗う洗浄室



土器の破片が並ぶ整理室



収蔵庫


 学習講座

古代体験学習講座 弥生の収穫&玉づくり

9月23日(日)に開催しました。

講座ではまず、体験農園で「たわわ」に実った古代米(赤米・黒米)や雑穀(アワ・ヒエ等)を、弥生時代と同じように石包丁や木包丁で収穫しました。さらに、杵や臼を使って脱穀を行いました。こうした体験を通じて、弥生時代の農耕について学ぶことができました。

玉づくりは、弥生時代北陸地方で盛んに行われていました。講座ではまが玉と管玉の製作を行いました。まが玉は、大型の「特製まが玉」をつくり、管玉は、直径約1cmの細長い石材に両側から孔を開け、さらに砥石で磨き完成させましたが、孔開け作業が難しく、当時の技術の高さを体験していただけたようです。



古代米の収穫 穂をつみ取ります



臼と杵で、籾から殻をはずします



仲良く特製まが玉づくり



難しい管玉の孔開け

古代体験学習講座 須恵器づくり

10月28日(日)に開催しました。

須恵器は古墳時代に朝鮮半島から技術が伝わり、平安時代までつくられた灰色の焼き物です。かほく市指江B遺跡などから出土した須恵器を参考に、「杯」や「壺」を製作しました。「杯」は一見、簡単に見えますが、薄く円い形につくるのは、意外に難しく、参加者は古代の技術の高さを体感できたようです。作品は、11月27日から30日に、当センターの「復元古窯」で1,200度を超える高温で焼成しました。



ロクロで杯の製作



大きな壺に挑戦



仕上げです



窯焼き風景



第14回いしかわの発掘展「遺跡と環境―森に生きる―」

いしかわの発掘展は、近年の発掘調査の成果などからテーマを選んで、夏季に開催する企画展です。本年度は平成24年7月13日(金)から8月31日(金)に、「遺跡と環境―森に生きる―」をテーマに開催し、次の3コーナーで構成しました。

○縄文人と森

縄文人は動物や木の実、家をつくる材料である木材など、森の豊かな恵みに支えられながら暮らしていたことを紹介し、木の実を調理する石皿・磨石や木を伐る石斧などを展示しました。

○生産と森

鉄の道具が伝わると、森の木を材料とした木製品の大量生産が可能となったこと、また古代人が森の木を燃料に須恵器や鉄を生産したことなど、人と森の新たなかかわりについて紹介し、弥生時代の木製農具や古墳時代の須恵器などを展示しました。

○動植物が語る環境

遺跡からみつかる動物の骨や昆虫の羽、植物の枝や葉、また微細な花粉などが、当時の自然環境や食生活を復元するための貴重な手がかりであることを解説しました。展示品は貝塚からみつかったイヌ・イノシシ・シカの骨などです。



移動講座 まいぶん^テ出^バり張^リ

この講座は、県教育委員会が実施した発掘の成果を、遺跡がある地域に出向き、わかりやすく報告・解説するものです。会場には地域の出土品を展示し、解説します。

かがを掘る

- 日時：平成25年2月10日(日)
13時30分～15時30分
- 会場：津幡町文化会館
河北郡津幡町北中条3丁目

重要文化財「加賀郡勝示札」で知られる加茂遺跡など、津幡町内の発掘成果を解説します。

のとを掘る

- 日時：平成25年2月24日(日)
13時30分～15時30分
- 会場：志賀町文化ホール
羽咋郡志賀町高浜町

旧石器時代にはじまる志賀町(旧志賀町・富来町)の遺跡について、発掘成果を解説します。